
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2007年11月～12月)

気象庁

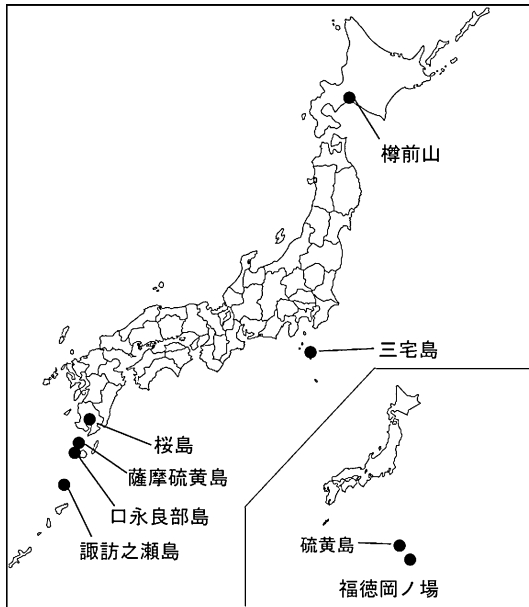


図 1. 2007年11月～12月に目立った活動があった火山

樽前山 ($42^{\circ}41'26''\text{N}$, $141^{\circ}22'36''\text{E}$)

11月13日に行った上空からの観測（北海道開発局の協力による）では、山頂ドーム及びその周辺の火口の状況に変化はなく、A火口及びB噴気孔群は引き続き高湿の状態が続いていると推定される。

地震活動は低調な状態が続いている。GPS連続観測では特段の変化はなかった。

三宅島 ($34^{\circ}05'37''\text{N}$, $139^{\circ}31'34''\text{E}$)

期間中、島内でDOAS（紫外線差分吸収分光計）を用いたトラバース法による火山ガス観測を8回行った。その結果、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000～2,500トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いていた。また、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがやや低周波地震（約3～10Hzが卓越する地震）で、高周波地震（約10Hz以上が卓越する地震）も時々発生した。震源はいずれも

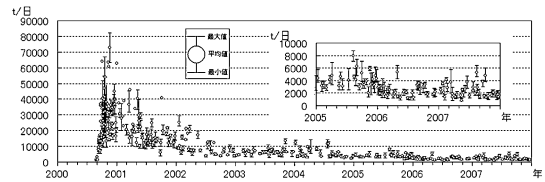


図 2. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月～2007年12月）

山頂火口直下浅部と推定される。低周波地震（約3Hz以下が卓越する地震）火山性微動は観測されなかった。

山頂火口の噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。全磁力観測では、火口直下の熱帯磁が鈍化しながらも続いている。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮と深部の膨張が継続している。

硫黄島 ($24^{\circ}45'03''\text{N}$, $141^{\circ}17'20''\text{E}$)

海上自衛隊硫黄島航空基地隊気象班により、島西部の阿蘇台陥没孔^{あそだいかんぼつこう}で11月19日から20日にかけての夜間に熱泥水が噴出したとみられる痕跡が確認された。

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は11月頃より一時的な増加もなく落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は11月に鈍化したものの継続している。

福徳岡ノ場 ($24^{\circ}17.1'\text{N}$, $141^{\circ}28.9'\text{E}$)

海上自衛隊及び第三管区海上保安本部が行った上空からの観測によると、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

桜島 ($31^{\circ}34'38''\text{N}$, $130^{\circ}39'32''\text{E}$ (南岳))

10月29日に南岳山頂火口で噴煙高度が2,400mに達する爆発的噴火が発生したほか、10月19日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震はやや多い状態であったが、12月にはいったくない状態で経過している。火山性微動は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

期間中、島内でDOAS（紫外線差分吸収分光計）を用いたトラバース法による火山ガス観測を3回行った。二酸化硫黄放出量は600～1,900トンで、10月頃よりそれまでの一日あたり500トン前後からやや増加し、一日あたり1,000トン前後で経過している。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

薩摩硫黄島（30°47'35"N, 130°18'19"E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね400mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くがB型地震で、A型地震も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

口永良部島（30°26'36"N, 130°13'02"E（古岳））

9月頃より火山性地震は一時的な増加もなく落ち着いた状態で経過し、火山性微動も少ない状態が続いている。

GPS連続観測では新岳の膨張傾向は、停止した状態で経過した。

遠望カメラ（新岳火口の北西約3kmに設置）による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

諏訪之瀬島（29°38'18"N, 129°42'50"E（御岳））

11月29日～12月2日と12月14日～16日に御岳火口で爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火が時々発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約4km）で降灰が時々確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

（文責：気象庁地震火山部火山課 加藤幸司）

○教員公募

【静岡大学理学部地球科学科】

1. 募集人員 助教1名
2. 専門分野 固体地球科学
3. 授業担当科目 学部及び大学院の地球科学の実験、実習、演習など。
4. 資格 着任時に博士の学位を有すること
5. 着任日 平成20年4月1日
6. 提出書類

(1) 履歴書（研究に関係した受賞歴及び外部資金への応募歴と獲得金額の一覧を含む。）

(2) 研究業績目録（①査読誌に掲載・受理された論文、②その他の論文に分類して記載。）

(3) 論文別刷

(4) 研究のキーワード（5つ以内）と研究概要（1600字以内）

(5) 応募者の研究経過等について意見を伺える方の氏名と連絡先（2名）選考の過程で2月2～6日の間に面接を行う場合がありますので、ご承知おきください。ただし、旅費の支給はありません。

7. 応募締切 平成20年1月25日（金）必着

8. 送付先 422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学理学部地球科学科 主任 里村幹夫（「地球科学科教員応募」と朱書きして、書留郵便でお送りください。）

問い合わせ先

狩野謙一 Tel: 054-238-4786 Fax: 054-238-0491

e-mail: sekkano@ipc.shizuoka.ac.jp

給与等に関する問い合わせ先

静岡大学総務部人事・労務チーム Tel: 054-238-4415

又は4416 Fax: 054-238-4268（参考）〔スタッフと研究分野〕（平成20年4月1日現在）本学科の概要および教員の陣容は、本学科のホームページ http://www.shizuoka.ac.jp/~geo/Welcome_j.html を参照して下さい。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月28日送信しました）

○教員公募

【北海道大学理学研究院地球惑星システム科学分野】

「北大基礎融合科学領域リーダー育成システム」（「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」プログラムによる）では、テニユア・トラック・ポストの特任助教を公募いたします。本プログラムでは、次世代の基礎融合科学領域のリーダーとなる資質を有した若手研究者を広く公募するため、採用選考では、研究能力はもとより、リーダーとしての総合力（企画力、組織力、推進力、解析力、国際性等）も併せて重視します。また、テニユア・トラック・ポスト着任後は、独立型研究環境が提供されるとともにリーダー育成プログラムへの積極的な参画が義務づけられます。女性からの応募を歓迎します。地球惑星システム科学分野では、以下の研究領域の研究者の公募を行います。研究領域：層位・古生物学または鉱物学。それぞれ地球惑星システム科学分野の地球環境史グループまたは地球惑星物質学グループと共同して意欲的に研究を推進し、国際的に活躍できる方。また、学部・大学院の教育および研究指導を在任教員と協力して行っていただける方。